

二〇二二年度 入学試験問題

国語 (六十分)

- ・問題は「一から三」まであります。
- ・解答用紙は一枚です。
- ・解答は全て解答用紙に記入して下さい。
- ・句読点、記号なども字数に含みます。

一 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

A この間、脳科学の本で面白いエピソードを読みました。教師が教壇から話すだけで、学生は黙って聴いているだけという授業でも、学生は教師をコントロールできるといふ実験なんです。教師が教壇の真ん中より右に行った時には、教師がどんなジョークを言っても笑わない。逆に、教師が真ん中から左にいる時には、それほど面白くない話でも爆笑する。学生がそうすると、授業開始一五分からは、教師は左側にはりついて動かなくなるそうです。もちろん教師自身は自分がそんな位置取りを **1** させられていることに気がつかない。無意識にそうしているんです。

実際にそれに類することは対面的環境では起きています。笑ったりとか、目をきらりとさせたりとか、今日もみなさんがされていますけれど、話の途中でボールペンを手にして、ノートを取り始める。これは教師に対する「X」のメッセージですよね。「いまたいへん面白く話を聴いています」ということを、ノートを取るといふジェスチャーを通じて発信しているわけですね。実際にうちに帰ってノートを見たら、書きなぐりで字が読めなかったりするんですけど。メモを取るといふのはむしろ副次的な目的で、実際には目の前で話している人に対して「Y」のが主たる目的なわけですね。

だから、僕が演壇から話すだけでも実は無言のうちの「やりとり」は行われています。聴衆のリアクションはかなり正確にこちらにも伝わっている。誰も笑わない、誰もノートを取らない……ということになると、こちらにも「今日は話が受けていない」ということがわかる。そういう時は話題や話し方を替える。そうやって環境に **2** します。聴衆が無言だからといって、一方向的であるということではないんです。聴いている人たちのボディ・ランゲージでのごく雄弁なんです。腕を組んだり、足を前に投げ出すのは、「お前の話を聴く気はないぞ」というシグナルですし、あごの下に手をあてて机に肘をつくというのは「すごくおもしろい」というシグナルです。だから、腕を組んでいた人が、机に肘をつくようになったら、それで僕の話に対する評価を変えたということがわかる。そういうふうにかなり複雑な意思 **3** をしているんです。

B だから、全部オンラインでいいじゃないか、放送大学みたいに、偉い学者に授業をしてもらって、それをクラウドに置いておいて、学生たちは好きな時間にそれをダウンロードして聴講すればいいじゃないか、それならもう教育力のない教員は要らなくなるから人件費削減になるといふような暴論を吐く人がいますけど、そういう人たちはオンラインでも実は送受信者の間で、活発なやりとりがあるということを知らないのだと思います。

たしかに定型的な知識や情報をパッケージにして差し出すということなら、クラウドに置いてある教育コンテンツを、自分の好きな時に受講することで済むかも知れません。でも、そういうやり方だと教育の場における最も重要なメッセージが届かない。それは、「このメッセージの宛て先はあなたですよ」といふメッセージです。宛て先を **4** するメッセージ、ローマン・ヤコブソンが言語の「交話的機能 (phatic function)」と呼んだものです。「私からのメッセージをあなたは受信したか?」「あなたからのメッセージを私はたしかに受信した」といふ、メッセージが成立していることについてのメッセージです。

C ヤコブソンは、その例として「新婚夫婦の会話」を挙げています。「やっと着いたね」「やっと着いたわね」「きれいな景色だね」「ほんとうにきれい

な景色」……というような繰り返し返しのことです。相手が言ったことをただそのまま繰り返し返しているだけで、有用な情報はほとんど何も含まれていません。でも、「あなたの発信したメッセージを私はたしかに受信した」ということを相手に伝えるためにはこれが一番有効なのです。

このやりとりでは、二人はお互いに相手の存在を認識し、承認し、祝福しています。キャッチボールと同じです。ボールが行き来するだけで、いかなる価値も生み出していないし、いかなる有意なコンテンツも行き交っていないように見えますけれど、違いますよ。キャッチボールでは、相手のグローブにボールを投げ込んで、「ぼしん」という小気味のよい音がするたび、それぞれのプレイヤーは「あなたがそこに存在することを私はいま確認した。私はあなたが存在することからささやかな喜びを引き出しており、あなたが引き続きそこに存在することを願う」というメッセージを送り合っているんですから。相互に相手の存在を確認し、かつ祝福している。これが「交話的機能」であり、コミュニケーションにおいて最もたいせつなことです。

オンライン授業でどうやってこの「交話的機能」を確保するか？それが教育現場では最重要の課題になります。授業を聴いている人たちが、「自分とはたしかに教師によって個別識別されており、いまのメッセージはあきらかに自分を宛て先にして発信された」と感じられるかどうか。そのためには、どう工夫があり得るのか。それが最優先の技術的課題だと思います。学校というのは何よりも先に子どもたちに社会的承認を与える場だからです。「君はここにおいてよい。君にはここにいる権利がある」ということをまず子どもたちにわからせる。

D 対面教育では、一人一人に呼びかけたり、アイコンタクトをしたりして、承認を与えることができます。オンラインでも、先生が生徒に個人的に呼びかけたり、メールのやりとりをすることができます。でも、そういうかたちで個別識別して、社会的承認を与えることができるのは、せいぜい一クラス一〇〇人くらいの規模までです。それ以上のサイズになると、積極的に教師に※アイコンタクトをとってくる「意識の高い学生」とはコミュニケーションがとれるけれど、そういうことができない「引っ込み思案の学生」とはコミュニケーションがとれません。ましてや、教師はテレビカメラの前でしゃべるだけで、それをダウンロードして聴講する受講生が何千人というようなサイズの授業の場合は、交話的な営みは構造的に不可能になります。それでは教育的コミュニケーションとしては成立しない。というのは、教育的コミュニケーションにおいては、学びへの開かれは「あなたはそういうことで何を言いたいのか？」という問いのかたちをとるからです。

あるメッセージについて、それをどういう文脈で了解するのかという子どもたちはまず決定しなければならない。それはジョークなのか、引用なのか、遂行的な命令なのか、一般論なのか……メッセージという「なまもの」をどういう「額縁」の中に収めるか。それがコミュニケーションにおいて一番たいせつなことなんです。

(内田樹『複雑化の教育論』より)

(注) ※クラウド……ソフトウェアを持たなくても、インターネットを通じて必要な時に必要な分だけ使えるサービスのこと。

※ローマン・ヤコブソン……ロシアの言語学者。

※アイコンタクト……接触。

問一 1 4 に入る最も適当な言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を重ねて用いないこと。

イ 確認 □ 決定 ハ 受信 ニ 選択 ホ 疎通 ヘ 適応 ト 配慮 チ 発信

問二 波線部 a、c の意味として最も適当なものをそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えなさい。

a 「類する」

イ 値する □ 重なり合う ハ 食い違う ニ 賛同する ホ 似通う

b 「副次的な」

イ 思いがけない □ 計算通りの ハ 重要ではない ニ はっきりしない ホ もつてのほかの

c 「暴論を吐く」

イ かつてな言いがかりを付ける □ 感情に任せて自由に振る舞う ハ ふてくされて捨て台詞を言う
ニ 悪質で許しがたい態度を取る ホ 常識からはずれた意見を言う

問三 傍線部1「学生は教師をコントロールできる」とは具体的にどのようなことを指しているか。次の説明文の空欄に入る六字の言葉をそれぞれA文

中から探し、抜き出して記しなさい。

▼学生の【 ① 】によって教師は【 ② 】を変えるということ。

問四 傍線部2「対面的環境」と対照的な状況を示す言葉は何か。C文中から七字で探し、抜き出して記しなさい。

問五 「X」・「Y」について、

I 「X」に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 対話 □ 失望 ハ 激励 ニ 集中 ホ 抵抗

II 「Y」に入る表現として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 「OK」のサインを送る □ 話し手の内容を理解する ハ 授業の詳細を記録する ニ 勉強しているとアピールする
ホ 指導を消極的に拒否する

問六 傍線部3 「ボディ・ランゲージってすごく雄弁なんです」とあるが、

I 「ボディ・ランゲージ」を「()」のシグナル」という形で言い換えた場合、空欄にどのような言葉を入れたらよいか。A文中から二字で探し、抜き出して記しなさい。

II 「雄弁」の()での意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ 聴衆の評価をありありと伝えること。
- ロ 聴衆の気持ちを誇張して伝えること。
- ハ 聴衆の意見を論理的に説明すること。
- ニ 聴衆の隠された本心を暴き出すこと。
- ホ 聴衆の期待に応えるふりをする事。

問七 傍線部4 「活発なやりとり」とあるが、

I 傍線部は具体的にどのようなことを意味しているか。D文中から三十字の部分を探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

II 傍線部のような「やりとり」のことを筆者は別にどのような表現で表しているか。D文中から六字の言葉を探し、抜き出して記しなさい。

問八 傍線部5 「教育の場における最も重要なメッセージ」を交わすことで、どのような意味が生じると筆者は考えているか。「()」という意味」という形で答える場合、空欄に入る言葉をC文中から十五字で探し、抜き出して記しなさい。

問九 傍線部6 「祝福しています」とは具体的にどのようなメッセージを込めることを意味しているか。C文中から二十字の部分を探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

問十 傍線部7 「有意なコンテンツ」を別の言葉に置き換えるとどうなるか。C文中から五字の言葉を探し、抜き出して記しなさい。

問十一 傍線部8 「メッセージという『なまもの』をどういう『額縁』の中に収めるか」とあるが、「メッセージという『なまもの』を『額縁』の中に収める」とはどういうことか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- イ 宛先不明のメッセージを熱気が冷めないうちに自分のものとして処理すること。
- ロ いかようにも解釈できるメッセージをどのような文脈で読解するか決めること。
- ハ 解釈しづらいメッセージを決まり切った形式に当てはめて理解しようとする事。
- ニ 評価の定まっていないメッセージを自分の価値基準に従って位置づけること。
- ホ ボディ・ランゲージによるメッセージを明確な言葉に置き替えて定着させること。

二 次の詩を読み、あとの間に答えなさい。

深切

長田 弘

親切¹ということばは 信じられない

できれば 深切²と 書きたい

そのほうがずっと 真実に感じられる

³ 幼いころ読んだ 物語のなかで

覚えた語彙⁴だ なんでも

しつかり踏んばって 人に

いかげんことは どうでもしない

深切は ただそれだけが たかが

それだけのはずが とんでもない

どうしてなかなか X だ

^{*} おためごかしの 親切と

深切は ^{*} いッかな ちがうのである

大人になって 不思議だったのは

深切という語彙を 誰も知らないし

誰も知ろうともしないことだった

大人になるとは 深切な人間に

なることだったはずである

いまは よくよく思い知っている――

日本語は もう 表意文字ではない

まだ信じられる語彙がいくつあるか？⁴

『長田弘全詩集』より

(注) ※おためごかし……相手のためにするように見せかけて、自らの利益を図ること。

※いッかな……どうしても、いつこうに。

問一 傍線部1「親切ということばは 信じられない」とあるが、

I 「親切」という言葉を作者が信じられないのはなぜか。答えとなる次の文の空欄に入る漢字二字の言葉を自分で考えて答えなさい。

▼「親切」とは【 】のようになる行為であることが多いと作者は考えているから。

II 作者の考える「親切」の意味と同じ内容を持つことわざを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

イ 袖振り合うも他生の縁 □ 人の振り見て我が振り直せ ハ 親の心子知らず

ニ 情けは人のためならず ホ 三つ子の魂百まで

問二 傍線部2「深切」という言葉の意味の説明に当たる部分を詩の中から十五字以上二十字以内で探し、その始めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。ただし、空欄は字数に含まないこととする。

問三 傍線部3「幼いころ読んだ 物語のなかで 覚えた語彙」とあるが、この語彙から作者が学んだことを詩の中から十七字で探し、始めの五字を抜き出して答えなさい。ただし、空欄は字数に含まないこととする。

問四 X に入る最も適当な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 言い得て妙 □ 至難のわざ ハ 焼け石に水 ニ 無駄な骨折り ホ 善は急げ

問五 傍線部4「信じられる語彙」とあるが、作者にとって「信じられる語彙」とはどのような言葉か。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

イ 作者が考える意味と一般的な解釈にズレがない言葉

□ 成り立ちが明確で使用例が数多く存在している言葉

ハ 漢字の意味と実際に使われる意味が合致している言葉

ニ 一部の人間だけではなく広く人々に知られている言葉

ホ その言葉で誰に対しても正しく内容が伝えられる言葉

問六

この詩の表現上の特徴として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- イ カタカナ表記を交えることで力強さや勢いを感じさせる。
- ロ 対句表現を繰り返し用いることでリズムを生み出している。
- ハ 口語定型詩として詩歌の伝統を踏まえた構成になっている。
- ニ 擬態語などを盛り込むことで重い主題を軽く表現している。
- ホ 擬人法や暗喩ゆを用い幼少期のイメージを喚起させている。

三 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

「俺」(菅田浩弥・三十歳)は近所にあるコミュニティハウスの図書室で、司書の「小町さん」と司書見習いの「のぞみちゃん」と知り合う。初対面の「小町さん」から手製の飛行機のぬいぐるみをもらった。また、『ビジュアル 進化の記録 ダーウィンたちの見た世界』を読むことを勧められ、読み始めている。

A 上機嫌で帰宅したら、母さんが誰かと電話でしゃべっているところだった。

華やいだ声で、すごく嬉し^{うれ}そう。相手はすぐにわかった。

電話を切ったあと、母さんは言った。

「お兄ちゃん、四月に帰国するって！」

頭の奥で、カーンとその声が響いた。急に殴られたような感覚に襲われる。

「東京本社に戻ることになったんですって。新しい部署ができて、その役員に選ばれたみたいだね」

ああ、とうとう。

とうとう、このときがやってきた。

¹うろたえているのを悟られないように、俺は「そうなんだ」と答えながら洗面所に向かう。

蛇口をひねり、水を出した。

勢いよく手を洗う。顔も洗う。ざぶざぶ。

頭の中を、『進化の記録』のあの一文がよぎっていく。

「——好ましい変異は保存され、好ましくない変異は消滅させられる。」

兄ちゃんは……。

子どものころから、出来がよくて。

小学生のとき、父さんと母さんが離婚して、三人暮らしになって。

そのときもう中学生だった兄ちゃんは、前よりさらにモウレツ^aに勉強し始めて、その姿はなんだか怒ってるみたいに見えた。父さんに、そして変

わってしまったこの環境に。俺が話しかけるとうるさそうに顔をゆがませた。

兄弟でも、ただ心細くて不安でうずくまっているしかない俺は、兄ちゃんとは違う種の人間だった。狭い家の中で邪魔したらいけないと思った。

だから俺は、学校から帰るとマンガ喫茶キタミに逃げ込んだのだ。

でもそのキタミも、俺が小学校を卒業するのと同時にに行けなくなってしまった。それまでの田舎暮らしから、母さんが女手ひとつで俺たちを育てて

いけるような仕事のある東京に引越すことになったからだ。

授業料免除の特待生で大学を出て商社に入社した兄ちゃんのおかげで、母さんはきつかったフルタイムの仕事を辞め、お気に入りのパン屋でパートをしている。

四年前、兄ちゃんがドイツに赴任^{赴任}することが決まって、俺は正直【X】のだ。兄ちゃんの前で俺はいつも、底なしにダメな人間に思えて仕方なかった。

——俺だって。俺だって、がんばって働こうとしたんだ。でもできなかったんだ。（中略）

嬉しそうな母さんの顔。

あたりまえだ。俺と違ってたよりになって、明るくて優秀な息子がそばにいてくれるようになるんだから。

「空港に迎えに行こうね」なんて言ってる。いやだ、行きたくない。

遠い国から、兄ちゃんは帰ってくる。俺は乗ったこともない飛行機で。

うまく進化を遂げた兄ちゃんがいるこの家で、俺はただ「好ましくない」存在になる。

そういえば、小町さんに飛行機をもらったと思ひ出す。

大昔の人間は、鳥を見ていて自分も空を飛びたいって、思ったんだろうな。

でもいくら進化したって羽根は生えないってわかったんだろうな。だから飛行機を作ったんだろう。

³俺は鳥になれないし、飛行機も作れない。空なんか飛べない。

何をお探し？

小町さんにそう聞かれたときに、真っ先に浮かんだ答え。

俺は探し続けている。

ひとつでいい、こんな俺の存在を許してくれる安らかな「居場所」を……。

B 翌日は、のぞみちゃんが休みの日らしかった。

図書室に入ると、小町さんが⁴どんと貸出カウンターにいてびっくりした。^{*}ハニードームの箱を持ちこんで、やっぱりざくざくとぬいぐるみを作っている。

閲覧テーブルに向かいながら、俺は小町さんを横目に「熱心だなあ」とひとりごちた。手元から目を離さず、小町さんは言った。

「昔、保健室登校していた子がやってたの。最初は手芸が好きなんだなとか思ってたんだけど、見ているうち気づいた。毛玉にひたすら針を刺しているとね、無心になるのよ。自分でやってみて、さらによくわかった。ざわざわした不安や濁った気分が、少しずつ平らに整ってくるの。ああ、あの子はこうやって心のバランスを図っていたんだなって思った。いいものを教えてもらったわ」

小町さんにもあるんだ。ざわざわした不安とか、濁った気分が。何が起きても動じないように見えるのに。俺は閲覧テーブルに座って、『進化の記録』を開いた。

こうしていると、昨晚乱れた心が少し落ち着いてきた。俺にはさして関心のない様子で、だけど拒絶もせず、すぐそばで手を動かし続けている小町さんの存在がありがたかった。いつでも本を読みにくればいいと言ってくれたことが。

でも、それもいつとよきことだ。一生ここで本を読んでいることはやっぱりできないだろう。保健室登校の小学生は時期がくれば卒業するけど、俺の節目は自動的にはやってこない。終わりも始まりも、誰も決めてくれない。

【Y】。環境に適応できない者は滅びる。

それなら、勝手にすうっと消してくれればいいのにな。適応できないってわかっていながら、「I」なんて思われながら、苦しい思いをしながらなんで生きていかなくちやいけないんだ。

俺自身にたいした力がなくなつて、世渡りできる器用さがちよつともあればうまくやっていけるのに。たとえ多少卑怯ひきょうなことをしてでも。

そんなふうにいるながらも、そうやって蹴落とされた側の痛みばかりがリアルに迫ってくる。光を当てられなかったウオレスは、本当にダーウインを「よき友人」なんて思っていたんだろうか。

俺は開いたままの本の上につぶした。

小町さんが抑揚dのない声で「どうした」とつぶやく。

「……………ダーウインって、ひどい奴じゃありませんか。ウオレスが不憫ふびんだ。先に発表しようとしたのはウオレスなのに、ダーウインばかりもてはやされて。俺、この本を読むまでウオレスなんて名前も知らなかった」

しばらくチンモクが続いた。俺はつぶつぶしたまま、小町さんは何も言わずにおそらく針を刺していた。

少しして、小町さんが口を開いた。

「伝記や歴史書なんかを読むときに、気をつけなくちやいけないのは」

俺は顔を上げる。小町さんは俺と目を合わせ、ゆっくりと続けた。

「それもひとつの説である、ということ念頭に置くのを忘れちゃだめだ。実際のところは本人にしかわからないよ。誰がああ言ったとかこうしたとか、人伝えでいろいろな解釈がある。リアルタイムのインターネットでさえ誤解は生じるのに、こんな昔のこと、どこまで正確かなんてわからない」

こきん、と小町さんは首を横に倒す。

「でも、少なくとも浩弥くんはその本を読んでウオレスを知ったよね。そしてウオレスについて、いろんなことを考えている。それってじゅうぶんに、この世界にウオレスの生きる場所を作ったということじゃない？」

俺がウオレスの生きる場所を？

誰かが誰かを想う。それが居場所を作るということ……？

「それに、ウオレスだって立派に有名人だよ。世界地図には、生物分布を表すウオレス線なんてものも記されてる。彼のコウセキ^fはちゃんと認められてると思うよ。その背後には、どれだけたくさんさんの名も残さぬ偉大な人々がいただろうね」

そして小町さんは、おでこに人差し指を当てた。

「それはさておき、『種の起源』だ。あれが発行されたのが一八五九年だと知ったときに、私は目玉が飛び出るかと思った」「え、なんで」

「だって、たった百六十年前だよ。つい最近じゃないの」

つい最近……。そうなのか。俺が眉を寄せて考え込んでいると、小町さんは頭のかんざしにそつと手をやる。

「五十歳近くになるとね、百年って単位が短く感じられるものだよ。百六十年なんて、がんばれば生きてそうだもん、私」

それには納得がいった。生きていそうだ、小町さんなら。

ざくざく、ざくざく。小町さんが無言になって、毛玉に針を刺しはじめる。

⁸俺は本に目を落とし、ウオレスのそばにいたであろう名も残さぬ人々のことを想った。

(青山美智子『お探し物は図書室まで』より)

(注) ※ハニードーム……洋菓子メーカーのクッキーの名称。小町さんはこの空き箱を手芸道具入れに使っている。

※ウオレス……アルフレッド・ラッセル・ウオレス(一八二三〜一九一三)。イギリスの博物学者。

※ダーウイン……チャールズ・ロバート・ダーウイン(一八〇九〜一八八二)イギリスの自然科学者。

※『種の起源』……進化論についての書籍。ダーウイン著。一八五九年出版。

問一 二重傍線 a f について、カタカナのものは漢字に直し、漢字のものはその読みをひらがなで記しなさい。

問二 【X】・【Y】に入る最も適当な言葉をそれぞれあとの選択肢から選び、記号で答えなさい。

【X】

イ むつとした □ がっかりした ハ ほつとした ニ ぎよつとした ホ さつぱりした

【Y】

イ 適材適所 □ 自然淘汰 ハ 盛者必衰 ニ 自業自得 ホ 信賞必罰

問三 傍線部 1 「うろたえているのを悟られないように」とあるが、「俺」はなぜうろたえているのか。その理由となる一文を A 文中から探し、始めの五字を抜き出して記しなさい。

問四 傍線部 2 「兄ちゃん」はどのような人物か。答えとなる十五字以上二十字以内の表現をここより後の A 文中から探し、その始めと終わりの四字を抜き出して記しなさい。

問五 傍線部 3 「俺は鳥になれないし、飛行機も作れない。空なんか飛べない」とあるが、この時の「俺」の気持ちに最も近いものを次の中から選び、記号で答えなさい。

イ 自分に関係のないものとは距離をとって、なるべく自由でいたいという気持ち。

ロ 面倒なことや大変なことから避けて、できるだけ楽をしたいという気持ち。

ハ 難しいことは別の人に考えてほしいと、他人に頼って生きていきたい気持ち。

ニ 自分が他人から認められないとひがみ、認めてくれない他人を憎む気持ち。

ホ 自分から何かを作り出そうとする意欲がわからず、全てをあきらめている気持ち。

問六 傍線部 4 「どどん」という表現から「小町さん」のどのような人柄がわかるか。答えとなる十字の表現を B 文中から探し、抜き出して記しなさい。

問七 「I」に入る表現を A 文中から八字で探し、抜き出して記しなさい。

問八 傍線部5「ウオレスが不憫だ」とあるが、この発言から「俺」はダーウィンと比べて、ウオレスをどのような存在ととらえていることがわかるか。答えとなる七字の表現をここより前のB文中から探し、抜き出して記しなさい。

問九 傍線部6「伝記や歴史書なんかを読むときに、気をつけなくちゃいけないのは」とあるが、「小町さん」が指摘したことに当てはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

イ 書物に書かれていることは誤解を含んでいる。

ロ 実際にあったことでもさまざまなお方がある。

ハ 本人によって書かれていることは真実である。

ニ 同じ人物でも書物によって評価は違うことがある。

ホ 昔の出来事は正確な情報として伝わりとは限らない。

問十 傍線部7「小町さんが無言になって、毛玉に針を刺しはじめる」とあるが、これは「小町さん」が何のためにしていることか。答えとなる次の文の空欄に入る表現をB文中から十字以上十五字以内で探し、抜き出して記しなさい。

▼【 】を整えるため。

問十一 傍線部8「俺は本に目を落とし、ウオレスのそばにいたであろう名も残さぬ人々のことを想った」とあるが、「俺」に起こった変化を説明した次の文の空欄に入る最も適当な表現を、①はA文中から、②はB文中からそれぞれ指示された字数で探し、抜き出して記しなさい。

▼今までは自分の【 ①（十八字） 】を求めることだけにとらわれていたが、自分が他者の【 ②（六字） 】ことができる気づいた。

以下余白

